



2020年4月28日

各 位

会 社 名 株式会社 ふくおかフィナンシャルグループ
代 表 者 名 取締役会長兼社長 柴戸 隆成
本 社 所 在 地 福岡市中央区大手門一丁目8番3号
(コード番号8354 東証第一部、福証)
問 合 せ 先 経営企画部長 藤井 雅博
(TEL.092-723-2502)

貸倒引当金の見積りの変更及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2020年3月期決算におきまして、貸倒引当金の見積りの変更を行う結果、2019年11月11日に公表いたしました2020年3月期の業績予想（連結）を修正することといたしましたので、お知らせいたします。

なお、2020年3月期の期末配当予想に関して、変更はございません。

記

1. 貸倒引当金の見積りの変更（フォワードルッキングな引当の導入）

当社は、通常的环境下でも発生可能性が高い信用リスク（予想損失）に対しては、十分な貸倒引当金にて備え、将来の景気悪化等予想以上の損失発生の可能性（非予想損失）に対しては、自己資本の充実を図ることで備えてまいりました。

こうした状況下、将来のリスクを足元や将来も含めた幅広い情報を活用して定量化し、融資方針や融資ポートフォリオを踏まえて貸倒引当金に反映させることが、より景気変動に左右されない貸出運営を可能とし、資金繰り支援をはじめとした安定的で適切な金融仲介機能の発揮につながると考え、貸倒引当金の見積り方法を検討してまいりました。

今般、景気予測に基づくデフォルト率の推計等将来のリスクを合理的に見積ることが可能となったため、貸倒引当金の見積り方法を変更（フォワードルッキングな引当の導入）し、2020年3月期決算において420億円程度の貸倒引当金を計上いたします。

2. 業績予想の修正

2020年3月期通期 連結業績予想の修正（2019年4月1日～2020年3月31日）

| | 経常利益 | 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|--------------------------|-------------|---------------------|----------------|
| 前回発表予想（A） | 52,500 百万円 | 148,500 百万円 | 781 円 15 銭 |
| 今回修正予想（B） | △5,000 百万円 | 111,000 百万円 | 583 円 89 銭 |
| 増減額（B-A） | △57,500 百万円 | △37,500 百万円 | — |
| 増減率 | — | △25.3% | — |
| （参考）前期連結実績 （2019年3月期） | 74,093 百万円 | 51,649 百万円 | 300 円 71 銭 |

（修正の理由）

当社の子会社において、主に①貸倒引当金の見積りの変更（1.貸倒引当金の見積りの変更を参照）（△420億円程度）、②新型コロナウイルス感染症の影響（△90億円程度）を予防的に織込んだことにより、信用コストが前回予想を上回る見込み（前回予想比△515億円程度）となったことを主因に経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益について、下方修正するものです。

なお、期末配当予想については、修正はございません。

以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

ふくおかフィナンシャルグループ 経営企画部 TEL092-723-2502

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2019年度 信用コストの内訳

- 信用コストは、**前回予想比▲512億円増加し、▲614億円を見込む**
- ✓ 主な要因は、
 新型コロナウイルス感染拡大影響 ▲87億円
 貸倒引当金の見積り変更 ▲418億円
 いずれも**将来の景気悪化に備えたもの**。
- コロナウイルスの影響が实体经济に波及した場合でも、金融仲介機能をさらに発揮し、**地域経済を支えていく**

【4行合算】 前回予想比の内訳

(単位：億円)

| コストの内訳 | 前回予想 | 今回予想 | 計画比 |
|---------------|-------------|-------------|-------------|
| 特殊要因 | ▲53 | ▲570 | ▲517 |
| 経営統合関連 | ▲53 | ▲65 | ▲12 |
| コロナ関連 | - | ▲87 | ▲87 |
| 見積りの変更 | - | ▲418 | ▲418 |
| 特殊要因以外 | ▲48 | ▲44 | +4 |
| 合計 | ▲101 | ▲614 | ▲512 |

貸倒引当金の見積りの変更 (フォワードルッキング引当の導入)

- **将来リスクを定量化し、合理的に見積ることで将来の不確実性への備えを強化**

□ 従来の引当方法の課題

- ✓ 貸倒引当金は、現時点における信用リスクを過去のデフォルト実績をもとに算出

□ 見積り変更後

- ✓ 将来の景気予測を貸倒引当金の算出プロセスに反映

貸倒引当金の算定プロセス

従来

債務者格付別残高 × 過去のデフォルト率の平均

↓ 将来の景気予測を反映

変更後

債務者格付別残高 × **将来の予想**デフォルト率

Point

好況時に引当金を計上/維持し、景気悪化時に活用
 = 景気変動に左右されにくい貸出運営が可能

現時点 ~ [将来] 景気悪化

② 景気悪化時に実際に発生した損失に貸倒引当金を活用



① 景気悪化により発生するであろう損失を見積り、現時点で貸倒引当金を計上

※説明を簡略化するためイメージで記載しております

【補足】健全性（信用リスクへの備え）の考え方

- **信用リスクには、貸倒引当金と自己資本で備え**
- ✓ 従来は、通常的环境下でも発生の可能性が高い信用リスク（予想損失：以下EL）に対しては、**十分な引当金**で、予想以上の信用リスク（非予想損失：以下UL）に対しては**自己資本でカバー**。
- ✓ 貸倒引当金の見積り変更後は、ULに対しても、**一部貸倒引当金でカバー**。
- ✓ 引当金の積み増しにより自己資本が一部減少するが、**健全性（信用リスクへの備え）の観点では、貸倒引当金と自己資本で備えており、従来と変わりはない**。

信用リスクと自己資本及び貸倒引当金の関係

